

第63回

【地域別】

市民と市長のタウンミーティング 報告書



○期 日 平成28年2月20日

○会 場 関前コミュニティセンター

武蔵野市

ま え が き

武蔵野市では、市民が自らのまちを自らの手で創りあげていく市民自治の基本に立ち、市民と行政が一緒にまちづくりを進めていくプロセスを大切にしたいと考えています。

そのひとつの手法として、市民と行政が「同じ目線」「双方向」で、地域の課題や市政全般について率直に意見交換を行う場として、「市民と市長のタウンミーティング」を開催しています。

この会には、地域のまちづくりの拠点であるコミュニティセンターを会場として、市とコミュニティ協議会が企画・運営方法を協議し、協働して実施する「地域別タウンミーティング」、テーマを設定して、そのテーマの関連団体にご協力をいただきながら実施する「テーマ別タウンミーティング」、そして屋外において実施する「青空タウンミーティング」がごございます。

今回は、関前コミュニティ協議会との共催により、「第63回市民と市長のタウンミーティング」を開催し、地域の課題やまちづくりについて話し合いましたので、その結果を報告いたします。

今後も、市内の様々な場所で、タウンミーティングを開催し、ご意見を伺い、市政に活かしてまいります。

武蔵野市長

邑上守正

概 要

1. 日 時 平成28年2月20日（土）
午後1時30分～3時30分
2. 場 所 関前コミュニティセンター
3. 主 催 関前コミュニティ協議会
武蔵野市
4. 参加者数 30人
5. 主催側出席者 市 長 邑上 守正
市民活動推進課長 北原 浩平
関前コミュニティ協議会 委員長 荻原 利夫
6. 司 会 関前コミュニティ協議会 中村 扶佐子 高橋 礼子
市民活動担当部長 秋山 真弘
7. テ ー マ 『安全・安心なまちづくり』
『住民同士の支え合い』

目 次

1. 発言の要旨.....	1
(1) 開会のあいさつ	1
(2) 「安全・安心なまちづくり」をテーマにした意見交換（要旨）	
1. 道路の安全確保と境浄水場再構築について.....	3
2. バス研修と防災会について.....	5
3. 水道料金と境浄水場について.....	7
4. 特別養護老人ホームについて.....	10
(3) 「住民同士の支え合い」をテーマにした意見交換（要旨）	
1. 自治会等の補助金について.....	12
2. 若者の地域参加について.....	13
3. 地域の団体の協働について.....	17
4. あそべえと青少協の運動会について.....	17
5. 学童クラブについて.....	19
6. 地域の会の情報発信と市民目線の行政施策について.....	21
(4) 閉会のあいさつ	24
2. 当日いただいたご意見と市の回答・対応方針.....	25
3. アンケートでいただいた感想	32

— 付属資料 —

第63回「市民と市長のタウンミーティング」ちらし

1. 発言の要旨

(1) 開会のあいさつ

【市長】

皆様、こんにちは。今日はあいにくの雨になりまして、予報ではこれからもう少し雨足が強くなるということでございますので、十分注意いただきたいと思います。

さて、皆様におかれましては、日ごろから地域でさまざまな活動を行っていただいていることを大変うれしく思っています。とりわけ、関前コミセンは、地域のネットワークづくりが良くできていると思っております。いろいろなイベントにいろいろな方が参加されているのを見させていただいているところでございます。

今日はタウンミーティングということで、中心は地域の課題となりますが、それに限らず、日ごろ感じていることをご提案、ご質問いただき、私もなるべく丁寧にお答えしたいと思っております。実り多き 2 時間になればと思っております。

今、市役所は、来週から始まります議会に向けての最終的な準備をしているところでございます。先日、平成 28 年度の予算案を公表させていただきました。予算額としては 667 億 6,600 万円です。今回はクリーンセンターの建て替え工事等も含まれているため、武蔵野市で過去最大規模の予算を組むこととなりました。あわせて、コミセンをもっと使いやすくするため、エレベーターが設置されていないコミセンに、順次設置していくことになりました。来年度は関前コミセンと緑町コミセンで設置する予定となっております。

また、関前で建設が始まっております特別養護老人ホームにつきましては、建設だけでなく運営に当たっても支援していける予算も組ませていただいているところでございます。

今日はいろいろご質問をいただきながら、もう予算案が公表できていますので、予算案をどんどん皆様にも紹介してまいりたいと思います。また、あわせて、来週水曜日から本会議が始まり、インターネット中継などもございますので、ぜひ議会での議論も参考にいただけたらと思っています。

後先になりましたが、今日は開催に当たりまして、事前の準備から関前コミセンの皆様には大変お世話になり、ありがとうございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。



【関前コミュニティ協議会 荻原利夫委員長】

皆さん、こんにちは。当コミセンの委員長の荻原と申します。よろしく申し上げます。

実は、この地域でタウンミーティングを開催するのは9年ぶりということで、その当時からは、だいぶ関前の地域も町並みも変わってきました。以前は、空き地や畑などもたくさんありましたが、このところ、建物がいろいろ建つようになり、畑なども少なくなってまいりました。そんな中で、どんな話を皆さんとしたらいいのかなと担当課とも相談したのですが、関前はあまり大きな課題もないかと思っています。しかし、各地ではいろいろな災害なども起こっていますので、「安全・安心」ということを一番に考えて、皆さんで話し合えたらと思い、このような議題をつくった次第でございます。

2番目の議題は、「住民同士の支え合い」ということで、その安全・安心のまちをつくるためには、皆さんで、どのようなことを話し合ったらいいのか、皆さんのご意見をお伺いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。ぜひいろいろな意見を出していただきたいと思います。



(2)「安全・安心なまちづくり」をテーマにした意見交換（要旨）

1. 道路の安全確保と境浄水場再構築について

【ご意見】

関前2丁目に住んでいる。

関前地区を東西南北に縦貫、横断する都道、具体的には、井ノ頭通りと新たに開通している調布保谷線のことについて申し上げたい。ここは、小学校の学区をまたがる形で幹線道路が走っていて、特に、最近開通し、交通量が大きく増えている調布保谷線は、一応40キロ制限という速度制限はかかっているものの、大型のトラックがスピードを出して走っていく。武蔵野市内は、外環の2についてもいろいろ議論が始まっていると思うが、ぜひ先行して開通している調布保谷線や井ノ頭通りを、道路管理者や警察等と連携して、信号をうまくコントロールなどして40キロ以下でしか走れないようにしてほしい。夜間にすごい振動や騒音の問題もあり、特に学区もまたいでいて、通学路も横断しているので、より安全・安心という意味で、交通事故に子どもたちやお年寄りが巻き込まれないように、時速40キロにちゃんとおさまるようにご指導いただきたい。

それから、境浄水場再構築の問題について、市民と行政との建設的な対話の場や仕組みをつくっていただきたい。それには2つ理由があり、1つは、地域住民にとって、この都市計画変更というのは、まち全体の価値が上がるプラスの変更というよりも、単なる不利益な変更でしかないからだ。例えば、民間事業者が持っている土地に、昔から化学工場があったとして、もっと大きなものを作りたいから規制緩和してくれと言っても、通常であれば行政は許可しない。しかし、今回は浄水場の再構築を東京都水道局が言ってきており、許可せざるを得ない中で、かなり大きなものを作ろうとしている。そうすると、地域住民からも、不動産価値が下落するのではないかという心配の声が上がっている。住宅ローンを抱えて、高い土地を買って家を建てている方も多くなっているのに、不利益変更となるので、不動産価値が下がるようなことにならないように、都市計画審議会において、ぜひ住民との建設的な対話の場を作っていただきたい。2つ目の理由は、今まで住民説明会をまちづくり推進課を中心に何度か開催いただいているが、やはり一方的な話になっているから。行政は行政で説明したいことを説明し、市民のほうも言いたいことを言うだけになっていて、意見書を出してもちゃんと答えていただけないというのが現状だと思っている。

【ご意見】

関前2丁目に住んでいる。

境浄水場が今度再構築されるということを平成27年9月26日に初めて知り、びっくりした。東京都との話し合いを何回ぐらいやったのか、その経過を知りたい。最初は23メートルの大きいビルが建つと聞いて、うちあたりは夕方、日が当たらなくなると思った。どうして井ノ頭通りに面したところに大きい建物を作るのか。西側のほうがいいのではないかと考えていたところ、もう決定したと1月23日に聞いた。高さが少し低くなったと聞いているが、市長は、東京都の人たちと何回ぐらい協議されたのか。市議会だよりでも都議会だよりでも、そういうことは掲載されていない。

浄水場の再構築は公共の福祉という名目があるから、百歩譲って作るとしたら、水道料金を安くしてもらいたい。

【市長】

まず、道路問題からお話しします。2つの道路は東京都の道路ということになりまして、幹線道路、準幹線道路の扱いなので、一定程度の交通は認めざるを得ないかと思っています。ただ、ご指摘のとおり、ちょうど調布保谷線というのは、学区を分断するような通りになっておりますので、我々もその通学時の子どもたちの安全確保は最優先すべきであり、スピードだけではなく、他のルールも徹底しなければ、安全確保はなかなか難しいのではないかと思っています。

実は、先日、町田市で子どもがトラックの巻き添えになったという事故がありました。子どもが青信号で渡っているのに、トラックがスピードを緩めずに左折して子どもが命を落としてしまったという事故ですが、これは単にスピードだけの問題ではないので、調布保谷線も徹底して、通学路、特に子どもがいる地域だということをいろいろな方法で伝えていきたいと思っています。例えば、五中に曲がる場所には、第五中学校の看板がありますので、そのような形でなるべく子どもが渡る通学路の一部であることを警察にも働きかけて、安全確保に努めてまいりたいと思っています。

境浄水場についてですが、東京都とはいろいろな場面で何回も接触してまいりました。この東京都の浄水場の計画について、境浄水場の建て替え等も含め、大きなスパンで位置づけられてきた経過があり、具体的な話に関しては、昨年ようやく東京都から伝えられたところがございます。

簡単に申しますと、境浄水場というのは、東京都民の水道水を確保するという、極めて

重要な浄水場であると私どもも理解しているところでございます。今回なぜ建て替えが必要なのかについては、上流部の東村山浄水場や金町浄水場など、東京都の浄水場をリニューアルするため、順次閉鎖しなければいけなくなるので、その代替の水源として、この境浄水場の浄水能力を高めなければならないということだそうです。現在、1日当たり31.5万トンの浄水能力があり、これを倍以上にするということですが、東京都民の水を賄うのに必要な水の安定供給からすれば、その機能については、我々は否定できるものではございません。

しかし、施設については大変大規模になるということもあって、我々は、施設の更新計画は理解できるけれども、建物の改築にあっては、十分に周辺環境に合うように配慮いただきたいと要望してまいりました。当初、我々に示されたのが、高さが23メートルという、大変高い建物だったので、なるべく低くしてほしいと再三申し出ており、同時に、北側のお宅が日陰にならないように、なるべく下がってほしいという交渉をして、結果としては、高さは最大の場所が20メートル以下におさまりそうですし、井ノ頭通りからの距離も、30メートルぐらいは後退していただけるようになっております。そうなりますと、道路の幅員からさらに30メートル離れるので、北側のお宅にはそれほど日照への影響は及ぼさないだろうと思っています。

ただ、皆様にはやはり心配な点が多々あるかと思っておりますので、今日の声も含めて皆様の様々な声を引き続き東京都には伝えていき、できる限りの配慮をするよう、私からも直接伝えていきたいと思っています。

2. バス研修と防災会について

【ご意見】

関前2丁目に住んでいる。

教育委員会からバスを借りて、いろいろな団体が研修をやっているが、申請基準が非常に厳しくて、昔と比べてだいぶ申し込みが減っていると聞いている。コミュニケーションを育む場でもあると思うので、我々としては楽しませてあげたいという気持ちがあるのに、例えばブドウ狩りを入れたいと思っても、大人は参加できないなど、非常に厳しい基準がある。例えばビール会社の見学では、ビールを飲むことだけが目的ではなく、廃棄物を100%活用しているという研修要素もあるので、バス研修の要件の緩和をお願いしたい。

それから、防災会についてだが、関前で防災会を立ち上げて、現在、登録されている方

が74名おり、5万円の補助金をいただいている。それが少ないと言いたくはないが、5万円ではとてもできないので、もう少し何とかお願いしたいと思う。せめて防災推進員1人分ぐらいの金額をいただけないだろうかと思っている。

【ご意見】

関前2丁目に住んでいる。

防災会というものを私は初めて聞いたのだが、市民にどのように公表されているのか。防災会は必要な組織だと思うが、まだまだ周知啓蒙されていないというところがあるので、その状況をお尋ねしたい。

【ご意見】

八幡町4丁目に住んでいる。

私は八幡町を中心とした千川地域防災会の役員をやっていて、5万円の補助金が出ている。千川地域防災会は、できてからちょうど丸3年経ったが、市民の方に周知されていないので、周知するための下準備を今までずっとやってきた。いよいよ来年は防災訓練も含めて、千川地域防災だよりを周知したりしてやっていきたいと思っているが、先立つものがない。大野田防災の会を見ると、コミセンを中心にいろいろな団体から協賛をいただいて、活動している。協賛などいただかないと多分できないと思うので、できれば、少しずつ助成金もご検討いただきたい。

【市長】

まず、バス研修については、いろいろな声を聞いております。基準を判断するところが教育委員会で、社会教育研修という形での取り組みなので、どうしてもいろいろな基準が決められているようです。ただ、おっしゃることも大変理解できる場所です。ある程度交流の場ということも考慮して、柔軟に対応できればと思っていますが、なかなか教育委員会の立場からすると、ワイン工場へ行ってワインをたくさん飲んでしまうのははばかられるといったようなことなど、いろいろ聞いておまして、難しいのですが、もう少し状況を確認しまして、なるべく柔軟な形に検討したらどうかと伝えてみたいと思います。

それから、防災会についてですが、関前には関前防災会という組織があって、それは自主防災組織と、避難所の運営をお願いしている組織です。後者は、全市的にはまだまだ網羅されておられません。避難所の場所は全小中学校18校と都立武蔵高校と都立武蔵野北高校の20か所に決まっているのですが、まだ避難所の運営組織が決まっていない所もございます。そこで、この間、コミセンや地域福祉の会や、いろいろな地域で活動されている方に

働きかけをしたところ、幾つかのところではそういう自主防災組織、ないしは避難所運営組織が立ち上がってまいりました。市としましては、今まではどちらかというと、その地域で活動されている団体への呼びかけが主であったと思います。これからの活動の中で、地域ごとの防災訓練などにあわせて、その会の活動の様子をPRし、メンバーの一員として活動にもご参加いただければと思います。市もそうですが、地域防災会の皆さんにも地



域に対するPRの機会を工夫していただけたらと思っています。

それから、補助金や活動費についてはご相談いただければと思います。今は防災協会経由で補助金がおりにていると思いますが、活動の積み重ねによって予算も増えていくかと思しますので、今後、活動内容を報告していただき、いろいろな要望もいただきながら、検討してまいりたいと思っています。

【ご意見】

関前4丁目に住んでいる。

バスの件について、今、市長からご回答いただいた話は、わからないでもないが、教育委員会でやっているからだめだという話に聞こえた。コミセンとか、福祉の団体という面から市民活動推進課の方でご検討いただけたらいかかと思う。市民活動推進課は大型バスを使っはいけないということもないのだと思うし、ぜひもう少し市民が集え、福祉に役立つような形でのバスの貸し出しをお願いできればと思う。

【市長】

趣旨は十分理解いたします。教育委員会での貸し出しというのはある程度きちんとした基準が必要かと思いますが、そうではなく、地域の交流や、コミュニケーションを育むような活動に対して、別途バスの用途を考えたらどうかというご提案かと思いますが、ご意見として承らせていただきたいと思います。

3. 水道料金と境浄水場について

【ご意見】

関前2丁目に住んでいる。

武蔵野市民は、80%は地下水で、20%ぐらいしか浄水場の恩恵を受けてないということ

を聞いているので、やはり水道料金を安くしてもらいたい。

【市長】

武蔵野市は、実は、境浄水場の水は使っておりません。ご指摘のとおり、武蔵野市は水道事業を独自でやっておりますので、8割は地下水をくみ上げて、足りない2割を東京都から買っています。現在、その水道料金は東京都より若干安いので、さらに市の水道料金を下げるのは、現状でいうと、なかなか難しい状況にはあります。ただ、今後とも、経費削減をするなり、少なくともこれ以上、料金が上がらないよう検討を進めていきたいと思っています。

【ご意見】

関前2丁目に住んでいる。

境浄水場の件だが、住民説明会を何度か開催してきて、東京都水道局、武蔵野市まちづくり推進課と、関前地域や境の方とは対話をしているが、結局、どちらも言いたいことを言うだけで、意見書を書面で市に出しても、その全部に対する回答は得られていない。先日も、住民の方が境浄水場を再構築することで、不動産価値が下がったらどうするんだ、ちゃんと鑑定してくれと市へ言われていたが、多分言いつ放しで、市も聞き放しとなっている。

もう少し具体的な例を挙げると、浄水場の樹木や、雑草は伐採してほしいという意見があるが、今現在も、ブタクサなどアレルギーの原因になる雑草がいっぱい生えていて、放置されている状況であり、何ら建設的な対話ができいないと思う。言いたいことをお互いに言い合って、結局行政の方は手続きだけ進めていく。市民の代表などが参加してもう少し建設的な対話をして、お互いに言いつ放しにならないような仕掛けや仕組みというものをご検討いただきたい。

【ご意見】

関前2丁目に住んでいる。

今の雑草の例でいうと、管理しているのは東京都の建設局のようだが、武蔵野市も放置していて、東京都の水道局も放置しているので、結局雑草は放置されたままである。実際説明会でその話も出ているが、縦割り行政の最たるものにならないように善処いただきたい。

【市長】

基本的には意見に対して返すのは当たり前のお話ですので、市に対してのご意見であれば、

必ず回答を返しております。ただ、東京都に対する意見がどうなっているか、もう一度確認いたしまして、もし返ってないようであれば、返事をきちんとするように伝えますし、私どもの方でも、もう一度整理したいと思っています。

【ご意見】

関前2丁目に住んでいる。

2020年のオリンピック・パラリンピックのホストタウンに、ルーマニアを選んだ理由を聞きたい。それと、ただ単に観光局として旗を立てたり、ムーバスにステッカーを貼るようなことだけで終わるのか。

【市長】

2020年の東京オリンピック・パラリンピックがあと4年後ということになりまして、子どもたちに対しても教育として、オリンピックに向けてどのようなことができるかというところをいろいろ考えているときに、ちょうど内閣府から、以前ワールドカップサッカー大会のときに、事前キャンプ地を全国的に誘致して子どもたちの交流などを行った事例がありますが、



日本武蔵野センター

それに近い形で、スポーツだけでなく、様々な交流をこの4年間に行い、いろいろな国を応援するための募集がありました。

武蔵野市は、23年前からルーマニアのブラショフ市と交流をしております。もともとこの関前地区に、曾我大介さんというルーマニアの管弦楽団のメイン指揮者が当時若手指揮者として活躍されていて、その曾我さんの縁で楽団を日本に招致するということから、交流が始まっています。現在、ブラショフ市の中に、小さな施設ですが、日本武蔵野センターという施設をつくって、そこで日本から日本語教師を派遣して、日本語教室や日本文化の紹介を20年近くしているところでございます。同時に、市内には、ブラショフ市民の会という市民活動団体がございまして、毎年ブラショフ市の高校生から大学生くらいの研修生を招いて1カ月ぐらい滞在してもらい、日本文化を学んでもらうという交流が続いております。

私どもは、当初からルーマニアに決めていたわけではなく、どこかの国を柱にして、事前に子どもたちへの啓発活動をするほうがいいだろうという考えでした。今まで武蔵野市では、幾多の海外交流をしています。ルーマニアだけでなく、韓国ですとソウル特別市の江東区という区と忠州市という2つの都市、それから、中国の北京市、ロシアのハバロフ

スク市、そして、アメリカのラボック市。このような自治体とは相互に子どもたちが行き交いをしていることから、それらの案もありました。しかし、日本から少し離れたところにある、ほとんどの人があまりよく知らないような国との交流というのも大変意義があるのではないかとということで、ルーマニアのホストタウンとして立候補したところです。今までの交流の経緯もあって、国のほうから認定をいただきました。現在、そこまでは決まっていますが、どういう交流をするかはこれから決めるところです。単にルーマニアを応援しますという看板を掲げるのではなく、実質的に、例えばルーマニアの方に来てもらい、様々な交流活動をするとか、文化人を呼んだり、演奏会を行ったり、あるいはかつてのオリンピック選手やスポーツ団体を呼んで市民とのスポーツ交流をするとか、いろいろなことが考えられるのではないかと思います。これから検討して、4年後に向けて少しずつ交流を育めたらと思っています。

ただ、ルーマニアだけでなく、様々な国の方が来られるわけですから、今まで交流してきたところはもちろんのこと、その他の国との交流も広げていけたらと思っています。

4. 特別養護老人ホームについて

【ご意見】

関前4丁目に住んでいる。

私は武蔵野市に来て12年くらいになるが、本当に良いまちで安心している。これから年金生活に入っていくが、高齢者の福祉の件に関してお伺いしたい。

まず、今、特別養護老人ホームが非常に入りづらいという中、老人福祉施設、特に特養について、どのくらいの定員数があって、待機数がどのくらいあるのか現状を知りたい。それから、今度新しく建てられる老人ホームはどの程度のものなのか、それが市の財政にどのくらいの影響があるかということを知りたい。

【市長】

市内には幾つかの特別養護老人ホームがありますが、なかなか希望どおりに入所できていない状況です。その結果として、市外の施設もご利用いただいているケースも多々ありますが、なるべく近いところ、あるいは市内での施設入所の方がよいであろうという考え方を持っています。

一方、国の方では、なるべく施設ではなく、在宅で可能な対策をもっと進めるべきではないかという方針です。それももちろんだと思いますので、在宅での支援を充実すると同

時に、在宅ではなかなか難しい方もいらっしゃるので、必要な方に必要な施設に入っただけのよう確保していきたいと思っています。

現在、市内では、322名分の特養ホーム、市外では567名分の特養ホームがあり、約900名分の特養施設は確保できていますが、待機者も、おそらく300名以上はいらっしゃると思います。待機者が多い中で、今回関前1丁目の久保公園のあたりに70名定員の特養ホームと、ショートステイ、地域開放型の施設、それから、事業所内保育所を開設する予定となっております。来年の6月オープンですので、ご注目いただきたいと思っています。

あわせて、在宅支援につきましては、武蔵野市ももっと力を入れていきたいと思っています。単にヘルパーの数を増やすだけでなく、例えば在宅診療、在宅看護、あるいは薬剤師にも訪問していただく訪問薬剤師のような取り組みについて、医師会にも働きかけていろいろ研究会を開いていただいています。市としましては、在宅でも介護しやすく、そして、必要な人には施設に入っただけのような取り組みを進めていきたいと思っています。

(3)「住民同士の支え合い」をテーマにした意見交換(要旨)

1. 自治会等の補助金について

【ご意見】

関前3丁目に住んでいる。

今から15年くらい前に越してきたが、地域の人たちはいい人ばかりで、僕も武蔵野市に越してきて大変よかったと思う。武蔵野市はコミセンを中心とした活動になっていて、町会自体はネットワーク化していないような状況の中で、それでも越してきた人間にとっては、地域の人たちが優しくしてくれることが大変ありがたかったので、その後、防災会や福祉の会などに参加している。

防災会は、地域のつながりがないと支えられないと思っている。市で地域のつながりを深めてくれるようなところに補助金をもっと出してもらわないと、おそらくはみんな年をとっていったら、こういうつながりがなくなってしまうと思う。

私はほとんどの会で広報を担当しているが、防災会では補助金が5万円しかないので結局何の広報誌も出せない。だから、コミセンだよりなどの広報と一緒に載せてもらう形でしか活動ができない。

福祉の会にしても、あまり状態のよくない印刷機を使って広報誌を作っているのも、そういうところにももう少し補助金を出してほしい。コミセン中心なのはわかるが、もう少し自治会などにも補助を出して地域のつながりを大事にしてほしい。

【市長】

武蔵野市内には、全市的にネットワークされた町会や自治会はありません。その中でも、この地域のように、自主的に組織された町会や自治会が幾つかございまして、全世帯の十

数%は、町内会や自治会に加入して活動されており、それはすごく大切なことだと思っておりますので、ぜひ活動を続けていただきたいと思っています。

ただ、武蔵野市には、現在、その活動に対しての補助制度がありません。そういう地域のネットワーク活動や交流活動に対してどういう支援が可能なのか、コミュニティを育む一つの方法として、



関前コミセン

よく研究してみたいと思っております。

武蔵野市は、戦後、マッカーサーによって町会制度が廃止されたことを尊重して、町会を復活するのではなく、コミュニティセンターを拠点にしてコミュニティを広く育んでいこうということで行ってまいりました。しかし、様々な課題を解決するときは、コミュニティセンターの範囲では広すぎるという状況もあります。武蔵野市では16のコミュニティ協議会があり、ひとつのコミュニティ協議会の範囲が1万人近くの市民となるので、なかなかきめ細かな取り組みが難しい面もございます。もう少し小規模の単位、つまり、町会などの単位での取り組みがもっとあってもいいのではないかと考えておまして、これから武蔵野市のコミュニティをどういうふうに組み立てていくのかを再度議論すべきではないかと考えています。

町会の活動はぜひ存続していただきたいですし、経費面が非常にネックとなっているのであれば、何か市も補助金について議論しなければと思っています。あわせて、コミセンについてももちろん期待したいところですが、全市的にコミセンをさらに補完するには、町会や自治会など、どういう単位でコミュニティを組織すればいいのかもあわせて議論していきたいと思っています。

実は、今のコミュニティセンターというのは、四十数年前にできた市のコミュニティ構想をもとにコミセンを中心としたコミュニティ形成を図っていくという動きになっています。もちろん大変いい理念のもと始まっており、その理念も大切にしなければいけません。これからのコミュニティを後押しするような新たなコミュニティ構想となるものが必要ではないかと考えております。この1月に調整計画を策定し、その中でも、新しいコミュニティ構想を考えていこうという提案もしておりますので、ぜひそういう場でも議論ができればと思っています。

2. 若者の地域参加について

【ご意見】

関前4丁目に住んでいる。

タウンミーティングの参加者に関して、全体的に年配の方が多く感じていて、若い人が地方行政などに関心がないということが最近社会問題になっていることも耳にする。特に中学校を卒業すると高校では市外に通学したり、その後市外に通勤したりする方も多いと思うので、成人式の時や市内の大学などで、若い人にもこういう地方行政に関心を向け

られるイベントがあったらいいのではと思う。今までそのようなことをやった経過があるのかということと、何かそういうイベントを考えているのかを教えていただきたい。

【市長】

確かに見渡すと、若い人は少ないですね。若い人はなかなか来づらいのかなと思うこともあり、こちらから若い人にいろいろ働きかけていこうということで、若い人を対象としたタウンミーティングもやっています。去年は亜細亜大学の皆さんと、大学のキャンパスを借りてタウンミーティングを行いました。留学生もたくさん参加してくださいました。その前にも、成蹊大学の学生と吉祥寺シアターの中で行ったり、積極的に学生など若者を対象としたものも行うようにしています。

それから、一昨年は、この地元の五中の皆さんの授業の一環として、市長との意見交換の場を学校の方で作っていただきまして、中学生の皆さんからいろいろ提案をいただきました。生徒達が、事前に市役所へ来たり地域を回ったりして、様々な課題を集め改善提案をしていただいたところ、その中の吉祥寺レンタルベビーカー事業が実現いたしました。なかなかこういう場に来にくいかもしれませんが、これからも市では若い人の意見を大いに歓迎していきたいと思えます。

この他にも、今年から選挙権が18歳以上になることから、選挙管理委員会でも、高校、大学にいろいろ働きかけて、啓発活動をしていこうとしています。ただ、残念なことに、今、選挙の投票率は若い人ほど低いです。簡単に申し上げますと、20歳代が20%台、30歳代が30%台、40歳代が40%台、50～60歳代から60%ぐらいということもあって、もっと若い人に関心を持っていただけるような政治をしなければいけないと思えますし、どうしたら、若い人がもっと地域に関心を持っていただけるのかということをお聞きしたいと思っています。

それから、もう一つ、小学校や中学校までは青少協の活動などで小まめに子どもたちが地域とつながる機会があるのですが、中学を卒業すると、地域との縁が切れてしまいます。例えば高校を中退してしまうと、その子の居場所や地域とのつながりがなくなり、あまりよくない方向に行きがちになってしまいます。市でも、その課題を認識しており、一昨年から若者サポート事業というのをスタートしました。特に高校中退者にアプローチして、



明るい選挙イメージキャラクター
選挙のめいすいくん

学習支援や就職支援、あるいは交流活動を行い、少しでもその若者のこれからの自立につながるような事業の試行を始めています。参加者はまだごくわずかしかいませんが、若い人がもっとこの地域で楽しく安心して暮らせるような支援を進めていきたいと思っていますので、若い人がどうしたらもっと地域に出てくることができるか、何かヒントがあれば、ぜひご意見をいただきたいと思っています。

【ご意見】

若者が地域に戻る方法として、例えば中学生が小学生の勉強の面倒を見るとか、中学生の面倒を高校生、大学生が見るとか、そういう継続してできるような仕組みを作っていくと、若者の地域参加が進むのではないかと思う。

【ご意見】

選挙権が18歳に引き下げられたということで、スウェーデンの話だが、市議会議員が、高校生や中学生と、議会と同じような方式で意見の交換会をするらしい。若者の要求が通って予算づけもちゃんとして、例えばフットサルの競技場の建設などが実現していくと、自分たちが言ったことが成果になると思えて選挙にも行くようになり、投票率が上がるらしい。今は、役所が勝手に決めているという意見もあり、市民も言いつ放し、役所も聞き放しというのが現状だ。このような会議を通じて、市民の意見を実現できていくなれば、もう少し政治に関心を持っていくのだろうと思う。



【市長】

市でも、若者から積極的に意見を聞こうということで、名称は仮称ですが、中高生会議という事業の企画をしております。そこで市に対していろいろ提案をしていただいたり、意見交換できればと思っていますので、そういう機会も通じて若い人たちの地域に対する関心を深めていただいて、愛着を持っていただき、この先、積極的に市政にも意見を言える社会人になっていただければと思っています。

私どもは、出された意見には必ず返していくというスタンスです。例えば今日のタウンミーティングでも、いただいたご意見は必ず文書として残します。今日私が答えられなかったことについても、報告書の中で市の回答という形で記載し、公表していきますので、そういうスタンスで、子ども達からの意見もきちんと返していきたいと思っています。

先ほど若者の地域参加の話がありましたが、思い起こせば、我々も、20代の頃は地域の

活動どころではなくて、仕事などに一生懸命だったのではないかと思います。自身のことを振り返ると、子どもができて、子どもつながりでいろいろ地域に関わっていき、PTAから始まって、父母会、それから、私の場合はコミセンで広報部長をやったりと、どんどん地域に引っ張り込まれます。若い人は地域以上に、市外に、あるいは世界に目がいく時期なので、地域に参加してもらうことはなかなか難しいかもしれません。しかし、人生のいろいろな場面で、地域との関わりが必ず必要なときが出てきますので、そのときに地域に出てもらうというのでもいいかもしれません。関心があるときに最大限のエネルギーを発揮していただけるのが若者のよさではないかと思いますので、外をいろいろ見ながら、やがては地域にもその力を出していただきたいと思っています。

【ご意見】

関前4丁目に住んでいる。

若者の参加について話したい。やはり一番頑張らなければいけないのは親だと思う。うちの息子から、市長に言っても意見なんか通じないだろうというような話があり、私も初めてタウンミーティングに出席したが、こんなに目の前で市長さんの話をじかに聞くと、やっぱり言えば通じるんだという気持ちになる。とにかくこのような地域参加の場に、親が若者を連れてくるということがまず第一ではないかと思う。

それと、選挙権が18歳から引き下げられたが、自分の子どもに選挙に行こうと言っても、「自分の1票なんか、しょせんは何の役にも立たない」と言われてしまった。でも、こういうタウンミーティングなどに参加すれば、やっぱり1票って必要だと思ってくれると思う。市長も、ぜひこういう活動を続けていただきたい。実際に市長の話をつきに聞くと、ということが一番いいと思うし、また、親が市の財政や市長はどういう人なのかなど、ホームページを見ながら子どもと話をすることが、これから若者が地域に参加するために一番重要ではないかと思う。

【市長】

大変いいご意見をいただきました。ただ、参加資格が親子連れとなると、なかなかそれも難しいかと思いますが、やはり、市から、あるいは市長から、若者を含め市民の皆様のほうに出向いていくというような仕掛けも必要だと改めて感じましたので、これからも、コミセンをベースにしたタウンミーティングに加えて、テーマ別や、世代別でも開催して、様々な機会を通じて、いろいろな人から意見を聞くような場をこれからも続けていきたいと思っています。

3. 地域の団体の協働について

【ご意見】

各地域に環境美化推進員という方たちがいる。実は、3代ぐらい前の部長と2か月に1回ぐらい話し合いをやっていたときに、美化推進員と地域の人たちとで、一緒に掃除をするなどの美化の活動をしたらどうかという話を自治会などにしてほしいと言っていた。しかし、地域では今、コミセンでみんな集まってやろうとしている。市の方では、どうもその辺のところはまだ縦割り行政の考えを持っている人が多いのではないかという気がする。

ただ、福祉関係については、災害時の要援護者支援事業においては市の中で横の連絡がとれるようになって、情報もよく流れてくるようになった。一概に縦割り行政だけが悪いということではないと思うが、関前には、クリーンむさしのを推進する会の地域の団体があり、その人たちと環境美化推進員とは、昔は掃除などを一緒にやっていたのだが、市の方から、環境美化推進員はクリーンむさしのを推進する会と別に会合を開いてほしいと言



美化推進員の活動

われてから、現在は別々にやっている。せっかく、推進員という形でいるのだから、地域を抱き込んで活動ができるようにしてほしい。

【市長】

もちろん地域には、環境美化推進員の方がいらっしやいますので、いろいろな活動を、地域の活動の中で一緒にやっていただくのがいいと思っています。

ほかの防災推進員もそうですが、市が全体としていろいろお願いしている方々も、やはり地域との関係で大いに活動していただけたらと思いますので、再度その辺は確認していきたいと思います。

4. あそべえと青少協の運動会について

【ご意見】

まず、あそべえについて、今までは館長は地域から選ばれていたが、これから公益財団法人に館長を任せるという話があるので、その経過などをお聞きしたい。それから、学童のことについても、経過などをお話しただければと思う。

それと、関前南小地区では、毎年10月、11月に青少協の運動会を開いているが、昔は市

役所の近くのグラウンドで大運動会をやっていた。それが終わるときに、地域で運動会をやっているところには、これからも多少の予算づけをしていくという話があった。ところが、何年か経った後、もうその必要がないということで、市では、そういう補助金はこれからなくしていくという話を聞いている。地域としては、もう少し頑張りたいと思っているといるので、補助金の使い方も、いろいろ難しいとは思いますが、市役所で一方的に決めてしまったのかというところが気になる。

【市長】

2点のご質問をいただきました。あそべえというのは、ご存じですか。小学校の放課後の遊びの場所を確保しようということで、地域の方にご協力いただきながら、指導員の方もいて、学校開放を行っている事業であります。そのあそべえと、もう一つ、学童クラブというのがあります。学童クラブというのは、親御さんたちが働いていて家にいないので、親にかわって監護をするという事業です。あそべえの方は誰でも参加できますが、学童クラブは定員があるので、登録して入会してもらいます。

放課後それぞれの事業がありますが、遊ぶ時間はみんな同じ学校の子どもですから、同じような指導をした方がいいのではないかと、いう考えもあり、2つの事業を行う運営主体を一体化していこうという動きを進めているところでございます。

具体的にいうと、来年4月からは、運営を子ども協会にお願いしようということで、今、準備を進めております。そうなりますと、2つの事業で2つの施設があるので、それを統括する施設長を置いて、それぞれ連携を図っていこうとしています。それぞれ指導員もきちんと設けていきますが、例えば片方の人数が極端に少なくなったときには、合同で行うことなども含めて、効率的な運営をし、専門的なスタッフを配置することによって、子どもの放課後を充実していこうという取り組みを進めております。

そして、関前地区におきましては、もう1つ問題がありまして、入会希望者が増えてきたということもあり、学童クラブの施設が狭くなってきたことです。今の場所では手狭になり、喜ばしいことに、関前南小学校の児童数がこれから増えていくという予測もございまして、現在の予定では、学童クラブを校内に増設しようという考え方になっています。そして、平成29年4月には、関前南小には2つの学童クラブができることとなります。学童クラブをきちんと整備して、待機児童が出ないような取り組みをしていきたいと思っ



おります。

もう1つは、青少協の地域運動会に関するお尋ねでございますが、この運動会には、私は毎回行かせていただいて、すごく地域の一体感がある、素晴らしい運動会だと思っています。それ以前には、市全体の運動会もあったのですが、ただ、全体の運動会といっても、武蔵野市民全員が参加できるわけでもなく、特定の選ばれた方しか出られなかったもので、市全体で一体感を育もうとしても、なかなか難しい面もあり、運営もいろいろな課題があったので、それはちょっとお休みさせていただいて、そのかわり地域運動会を支援していただくということになりました。

その流れで、今まで地域で行われている運動会に若干の補助金を出していたのですが、この補助金の出し方が変わります。これに関する説明がうまくいかず、その補助金がもうなくなるのではないかと思われてしまったのですが、従来の補助金は今まで通り交付できます。ただ、その出所が少し変わりますので、それは丁寧に説明するよう伝えましたので、これからも関前地区の大運動会を継続していただきたいと思っています。そして私も応援に行きたいと思います。

5. 学童クラブについて

【ご意見】

関前4丁目に住んでいる。

先ほど市長がお話しになった学童クラブを広げるという話は、大変ありがたい話だと思うのだが、その際に1つお願いがある。今ある学童クラブは、関三倶楽部という、ショートステイなどの福祉施設の上であり、使う時間帯が多くの場合は重ならないためいいだろうというお話もあるが、お年寄りが休みにきたり遊びにきたりしているところの上で子どもたちが遊ぶので、下に足音や話し声が筒抜けということもある。これから新しくそういう施設を作っただけというのであれば、そちらのほうへ何とか現在の学童クラブを統合して、両方がうまく使えるような形にしていただけることをお願いしたい。

【市長】

本来ならば、学童クラブは学校の校舎内の利用が望ましいのではないかと考えています。今、学校の児童数はそんなに増えていないのですが、少人数授業などの取り組みで教室がめいっぱい使われている状況です。学校の校舎内利用がなかなかできない中ではありますが、現在は、学校の施設内に学童クラブを設けていくという方針です。関三倶楽部は、実

は隣接地で学校の敷地ではありませんが、それほど余裕がある場所がないので、隣接地も含めて用地をいろいろ検討し、児童数の増加に対応した一施設を設けるしかないかと思っ



関三倶楽部

ています。ただ、全体の学童クラブへの希望者数を再度精査しまして、新しくつくる施設で吸収できるようであれば、そちらで全児童と一緒にして学童クラブ事業をできればとも思っています。

それと、もう1つは、長期的な話になるかもしれませんが、関前南小も、やがては建て替えをしなければいけません。市内の18の小中学校の中で、大野田小と千川小を除いた残りの16の小中学校が老朽化

してまいりましたので、今、更新をしていく時期になっています。また、もう1つ課題となっているのは、小中学校の9年間でどういう教育をするかということです。今、国のほうでは、小中連携をもっと進めるべきではないかということもあり、市の教育委員会でも、その9年の義務教育期間をどういう枠組みでやったら、最もいい教育ができるかということとを議論しているところです。実は、今日も、午前中に品川区の小中一体型の学校を見てまいりました。小学校1年から中学3年までの一体型でしたが、わりとなじんでいました。1年生から4年生までと、5年生・6年生・中1まで、それから、中2・中3までという大きく3つに分けて、それぞれ特徴ある授業をやっています。簡単にいうと、小学校5年生ぐらいからは教科担任制、つまり専門の先生が専門の教科を教えるということで、それはそれで中身の濃い授業になり得ると思います。まだ途中ですが、教育委員会の方でどういう議論を進めていくか、小中の連携をどう実現でき、どういう形が望ましいのか、それに向けて、例えば校舎の建て替えの際に、そういう可能性があるのかないのかも含めて、これから大いに議論を深めていきたいと思っています。それは10年、20年先ではなくて、5年、10年ぐらいのスパンで考えなければいけないと思っていますが、そういう時期に、例えば関前南小学校が建て替えになりますと、施設更新が微妙に難しい時期でもあるのです。

例えば、校舎は部分的に建て替えることはなかなか難しいので、もう少し先行きが見えた段階で手を入れるべきところは手を入れたいと思います。実は、関前南小学校の屋上の太陽光パネルが、現在、止まってしまっています。それを改修しようと思って補助金がもらえる前提で予算組みをしたのですが、補助金がもらえなくなってしまい、改修できてい

ない状況にあります。しかし、屋上にある太陽光パネルは、環境教育上、非常に貴重なものだと思っていますので、少し時間はかかるかもしれませんが、必ず今後予算を組んでやっていきたいと思っています。しかし、全部取りかえるとすると、校舎の建て替えの時期との検討が必要ですので、これもよく考えなければいけないと思っています。

いずれにしましても、学校は、子どもの教育をしっかりとしていくために必要な改修は必ずしていくということ、それから、最もよい教育に向かっていろいろ研究をして、それにふさわしい学校の改築を行っていきたいと思っています。

6. 地域の会の情報発信と市民目線の行政施策について

【ご意見】

何年も住んでいても、関前の防災会を知らなかったという意見があった。私は、昔から、青少協を理解していただくために何十年もかけて青少協の周知活動をやったことがある。100軒も新しい方が住んでいる関前なので、わからない方は大勢いると思う。そして、社協やバスの問題、日赤の問題、ボランティアに関わる問題が幾重にも重なっているが、何の会があるかということも知らないで、バスへの補助金などのことを言っても始まらないと思う。だから、よく「向こう三軒両隣」という言葉があるが、社協は向こう三軒両隣がちゃんとしていれば成り立つのに、それがいないからもたついているのだと思う。

そして、市長が話されたように、改革案があって、コミュニティ構想を新しくすることは本当にいいことだと思っている。世の中も変わり、若い人も忙しいし、年寄りも忙しいが、大勢年寄りがいて、関前にも優秀な人も大勢いるのに誰も出てこないの、コミセンでは現在人手不足となっている。

こちらも一生懸命市に協力しようと思っているが、なかなかわからない。だから、市長をお呼びするよりも、コミュニティセンターの委員長や社協の代表者、防災の代表者の方達が市民と話した方がいいのではないか。いろいろな会を抱き合わせにして、利用者懇談会を開いて、新しい方が、武蔵野市にはどんな会があり、どうなっているかということがわかるような機会を日曜日とか、土曜日にしていただければと思う。

【ご意見】

関前2丁目に住んでいる。

質問というよりも、意見なのだが、武蔵野市に住めるということは非常に誇りに思えるし、また、行政の中でも、特に高齢者関係や子どもに関するいろいろな事業をやっていた

だいて、非常にありがたいと思う。

その中でぜひお願いしたいのは、心のある行政施策をとっていただきたいということだ。役所としては仕方がないと思うが、例えば高齢者関係でいうと、テンミリオンハウスの関係でいろいろな運営主体があるが、何年かごとに替わってしまう。そうすると、当然スタッフも替わり、今までよくしてもらっていたスタッフが急に替わってしまい、高齢者にとっては、非常に負担だと思う。これは行政から見ればやむを得ないところも多々あることは重々承知だが、その辺に關してもう少し心のある行政施策がとれればと思っている。

【市長】

いろいろな活動をされていても、それが地域になかなか伝わっていかないという、そんな課題もあります。市全体で申しますと、14万人の住民がいらっしゃいますが、毎年1万人の方が出入りをされていますので、常に情報は出し続けないといけないと考えております。特に新しく転入された方については、地域の活動について、なかなか伝わっていないということも重々承知しておりますので、ぜひコミセンの皆さんには、情報の発信をお願いできたらと思っています。



それぞれの団体の活動の場所として、コミセンをご利用いただいていることもあります。そういう団体の皆さんが一緒に集って、地域の様々な課題を共有するような活動も大切ではないかということで、コミュニティ研究連絡会の方からもいろいろ提案をいただいている、地域フォーラムという誰もが参加できるような形での課題の出し合い、あるいは話し合いの場をやっていこうということをご提案いただき、幾つかのコミセンでその試行が始められています。ぜひ関前コミセンにおかれましても、いろいろな団体の方、あるいは市民の方も交えて、地域の話し合いをしていただければいいのではないかと思います。

それから、テンミリオンハウスは大変評価していただき、多くの方に利用していただいています。ただ、それはやはり市の税金を使って運営いただいているということもあって、きちんとその運営について管理や監査、評価をしていこうとしており、5年に一度その見直しをしております。当然、それまでやっていた団体も再度エントリーが可能でございますので、今までの例からいうと、おおむねそれまで事業をやっていた団体が、運営を継続されております。テンミリオンハウスで十分な事業をやっていたければ、基本的

にはそのまま継続していただいているのではないかと思います、きちんとした評価をして見直しするという事は、市としても、行わなければいけないと思っています。

【荻原委員長】

地域の住民総会や利用者懇談会で、もうちょっと皆さんの意見が活発に出るような会にしてほしいということだと思います。呼びかけはするのですが、呼びかけ方がまずいのか参加者が本当に少なく、委員さんの他に何人か住民の方がいらっしゃるような住民総会になってしまいます。ただ、役所の方に来てもらって、住民総会と一緒に勉強会を開いたりすれば、もう少し参加していただけるかと思いますので、今、私の独断では何とも申し上げがたいのですが、そういうことも研究しながら、これからも会を開いていきたいと思えます。

関前では地域フォーラムはやっておりませんが、地域の方々や地域の団体との話し合いの場を設けております。この地域は、福祉の会から始まって防災会ができました。その会にはコミセンの関係者である私も一員として参加させていただいており、防災会もまだまだ課題が多いところもあります。地域フォーラムや福祉についても、皆さんと話し合いながらやっていければと思っております。

(4) 閉会のあいさつ

【荻原委員長】

今日はどうもお疲れさまでした。9年ぶりということで、皆さんから頻度を増やしてほしいという話もありましたので、これからもう少し、間隔を詰めて市長のほうにもご協力いただき、こういう会を進めていきたいと思えます。

本当に皆さんから、様々な意見が出ました。我々も普段からいろいろなことを思っていますが、やっぱり今まで一方通行で思っていたことも、丁寧に説明していただくということでもわかってくることもあるかなと思えます。これからも市の皆さんには頑張ってください、地域へのご協力をお願いして、ご挨拶いたします。今日はどうもありがとうございました。



【市長】

どうもありがとうございました。

今日もいろいろな意見をいただきました。まだ十分な回答ができなかったかもしれませんが、しっかりと皆様の意見を受けとめていきたいと思っています。また、今日に限らず、いろいろな機会があろうかと思えますので、ぜひ皆さんの声をいただきたいと思えますし、先ほど委員長からお話いただきましたが、市の職員をもっと来させますので、勉強会なり、こういうことを聞きたいなどあれば、ぜひ市のほうにご一報いただきたいと思っています。この地域は、農地もいっぱいあります。住環境としてはとても恵まれた地域ではないかと思っておりますので、この住環境を、皆さんとこれからも一緒に守っていききたいと思えます。



また、武蔵野市全体の人口もそうなんですが、これからやはり高齢者の人口が増えてまいります。予測では、30年後には人口の33%は65歳以上の高齢者、つまり、3人に1人は高齢者となります。昔は、高齢者になると引退して、隠居生活で若い人に支えられるということがあったかもしれませんが、これからは、高齢者も地域の一員としてお互いに支え合うような、そういう役割が必要ではないかと思っています。そのためにも、ぜひ健康づくりですね。健康で楽しく長生きをしていただくというのが最大の幸せではないかと思えます。先ほど高齢者福祉の話をしていただきましたが、市も施策の充実をしながら、かつ若い世代も住みやすいまちづくりを進めてまいりたいと思えますので、どうぞこれからもよろしくお願ひします。

今日はお世話になりました。コミセンの皆様、ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

2. 当日いただいたご意見と市の回答・対応方針

(※アンケートでいただいたご意見も含まれます。また、同じ趣旨のご意見については、一部割愛しています。)

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
1	境浄水場の再構築	境浄水場を再構築することで、不動産価値が下がることが無いように、住民との建設的な対話をしてほしい。 現状では、意見を言っても行政から答えを得られていない。	境浄水場再構築に伴う都市計画の変更に関しては、昨年9月より6回の説明会を開催し、再構築事業の内容及び都市計画の変更について説明を行ってきました。また、問い合わせ等についても水道局と連携して対応し、説明会や意見見解書等で見解をお示しております。 なお、不動産価値は様々な要因により判断されます。今回の再構築事業は、周辺環境に配慮するため、地区計画で制限をかけて対応していることから、不動産価値に影響があると考えておりません。
2		浄水場の再構築について、平成27年9月26日に初めて知った。これまで東京都との話し合いは何回行ったのか、経過を知りたい。	水道局との意見交換は2年程前から行っております。具体的な協議については平成26年12月頃から始め、市としての考え方をまとめた上で平成27年9月に説明会を開催いたしました。
3		高い建物が建つことで、浄水場の北側の家には、夕方日が当たらなくなってしまうのではないかと。	現在、検討している地区計画では、建物等の高さの最高限度を定めるほか、壁面の位置の制限を設定して、日照の確保を図る建築物等の整備の方針となっております。また、1年のうち最も日影が伸びる冬至日においても、15時における建物日影は井ノ頭通りと民有地との境界付近にとどまります。このため、日影の影響は少ないものと考えています。
4		説明会で雑草が放置されていると言ってきたが、武蔵野市も東京都も放置している。縦割り行政にならないでほしい。	説明会でいただいたご意見については、東京都北多摩南部建設事務所に連絡し対応いたしました。今後も、必要に応じ関係部署と連携してまいります。
5		武蔵野市民は20%ぐらいしか浄水場の恩恵を受けていないということを知っているので、やはり水道料金を安くしてもらいたい。	本市の水道水は、市内27か所の深井戸(深さ250m)からくみ上げた地下水(約80%)と東京都水道局が供給する河川水を高度処理した水を購入したもの(約20%)を混ぜ合わせて市民の皆様にお届けしています。 日量で換算すると、平均給水量は約48,000m ³ で、その内訳は地下水が約38,000m ³ 、不足する約10,000m ³ を東京都水道局から購入しています。境浄水場から本市の水道管には直接つながってはいませんが、この不足する水量は、東京都水道局全体の水源量(日量630万m ³)で水運用する一部から供給されていると考えています。 本市の水道事業は独自で運営しているため、水道料金についても独自の設定としておりますが、現状では東京都の水道料金と比較して若干低額となっております。 今後も経費節減等に努めるとともに効率的な水道事業の経営を行ってまいります。

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
6	バス研修	バス研修の要件を緩和してほしい。コミュニケーションを育む場であるので、楽しませてあげたいのに、基準が厳しい。	この事業は、社会教育関係団体への活動支援のひとつとして提供しているものです。要件については、利用者の安全や公平性を保つため、教育委員会の要綱にもとづき実施しております。何卒主旨をご理解いただきご利用ください。
7		大型バスの借上げを市民活動推進課でやったらどうか。バス研修を福祉に役立つように貸出してほしい。	市民活動推進課で貸し出しを行っているバスの使用は、市民団体が、市の施設又は市内若しくはその周辺で行われる公益活動その他市の施策に関連する活動を視察するときなどとしております。また、市内在住の障害者、高齢者、児童等により構成される活動実績のある団体で、市又は市教育委員会が実施する他の制度によりバスの提供を受けることができない団体については、地域支援課で福祉バスという形で借上げを認めているものもあります。
8	防災会	防災会への補助金が少ない。	現在、避難所運営組織に対して助成金を交付しています。助成金の額やあり方等について、引き続き検討を進めてまいります。
9		防災会は市民にどのように公表されているのか。	市ホームページ及び市報等での広報を行っています。また、防災課職員が行う防災講話や市主催の訓練等の際には、自主防災組織への参加や結成を呼び掛けています。
10	ホストタウン	東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウンにルーマニアを選んだのはなぜか。	平成4年に交響楽団の支援から始まった武蔵野市とルーマニア国ブラショフ市の交流が発展し、平成10年には活動の拠点としてブラショフ市内に「日本武蔵野センター」を設置しました。日本語教育や市民交流を通して日本とルーマニア国の交流のかけ橋としての役割をはたしています。このような経緯からルーマニアのホストタウンとして申請いたしました。 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、ルーマニア国を武蔵野市がホストタウンとして応援し、文化・スポーツ相互交流を実施していきます。
11	特別養護老人ホーム	特別養護老人ホームは現状としてどのくらいの定員で、待機者は何人いるのか。	入居希望者の実数調査は3年毎に行われています。前々回は平成22年11月現在で、498名(うち要介護1・2は104名)、前回は平成25年11月現在を基準として行われ、478名(うち要介護1・2は102名)が入所を希望され、平成22年調査から20名(4%)減少しました。平成27年4月から介護保険法の改正により、要介護1・2の方が入所申込要件から原則外れることになりました。そのため、現時点で370名程度の入居希望があると推計しています。 なお、最新の調査は平成28年11月に実施される予定です。
		新しくできる老人ホームはどの程度のもので、市の財政にどのくらい影響があるのか。	平成29年6月に特別養護老人ホームが関前1丁目に開設される予定です。定員は70名で、10名のショートステイも併設されます。加えて、デイサービスや防災型地域交流スペースのほか、事業所内保育所(地域開放型)も整備される予定です。 市は事業者に対して施設整備の一部を補助しますが、第6期介護保険事業計画で既に見込んでいるため、新たに介護保険料を押し上げることはありません。

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
12	自治会への補助金	防災会を含め、地域の自治会に補助金を出してほしい。	現在、避難所運営組織に助成金を交付していますが、引き続き交付対象団体等、助成金のあり方について検討を進めてまいります。また、市ではコミセンを中心に地域コミュニティの形成を図っていますが、自治会活動も重要な活動であることは認識しています。補助金を含め、支援の方法については、今後研究して参ります。
13	若者の地域参加	若者にも地方行政に関心を持ってもらえるイベントをやったことはあるのか。何かそういうイベントを考えているのか。	成人式会場での選挙啓発に加えて、平成27年度の公職選挙法改正による選挙権年齢の18歳への引き下げを受け、市内の高校での出前講座や模擬投票などを実施しています。今後も市内の高校・大学等と連携しながら政治や選挙を身近に感じ関心を高められるよう啓発活動を進めてまいりたいと考えております。
14		中学生が小学生の勉強を、高校・大学生が中学生をみる仕組みを作れば若者の地域参加が進むのではないかと。	若者の地域参加や子どもプランへの意見反映を図るため、中高生世代会議(仮称)の開催を検討しています。ご提案いただいたとおり、大学生を含めた各世代の繋がりを活かし、継続的な仕組みを作る必要があると考えています。また、中高生リーダー制度では、むさしのジャンボリー事業、保育体験ボランティア、地域イベントボランティアを通じて、中高生が小学生以下の子どもに対し、リーダーとして関わり、将来の地域の担い手として成長するよう取り組んでいます。
15		スウェーデンでは市議会議員が議会と同じ方式で中高生と意見交換会をするらしい。このような会議を通して市民の意見を実現できればもう少し政治に関心を持てるのではないかと。	ご指摘にあるような中高生を対象を限定したということではありませんが、市民の方からの意見を今まで以上に、どのように吸い上げて施策につなげていくかとの課題は議会においても認識しており、平成27年6月から進めている議会改革等協議会の中でも議論を行ったほか、同協議会からの要請を受け、議会運営委員会や議会広報委員会においても市民と議会との意見交換会等について話し合いを続けています。
16		地域参加の場に親が若者を連れてくるのが第一だと思う。そして、親が市の財政や市長について子どもと話をするのが重要だと考える。	市では、市民の皆様からの声をお聞きし、市政にいかしていくため、地域やテーマごとに「市民と市長のタウンミーティング」を行っています。これまで、中学生や大学生を対象としたタウンミーティングも開催してきました。今後も、若い世代にも市政に関心を持っていただき、ご意見をお聞きする機会となるよう様々なテーマや方法を検討してまいります。
17	美化推進員	美化推進員が地域の人たちと一緒に美化活動をするを自治会に提案してほしいと言っているが、市では縦割行政の考えである。 環境美化推進員とクリーンむさしのは別々に活動しているが、抱き込んで活動できるようにしてほしい。	環境美化推進員の方々には、現在第12期として平成28年4月1日から平成30年3月31日までの委嘱期間で地域の美化活動を行っていただいています。今期の推進員の方々にも、地域と連携して活動を進めていただくようお願いしており、市としては、市民と行政とを繋ぐパイプ役としての役割を期待しています。このことから、積極的にコミセンの美化活動に参加していただき、美化活動の先導役として活躍していただきたいと考えております。また、推進員とクリーンむさしのとの関係は、組織が別であることから、それぞれの位置づけが異なる以上、あくまで協働という形が望ましいと考えておりますが、地域の美化活動という面では重なる部分があるので、その部分で協力関係を築いていただきたいと思います。

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
18	あそべえ	あそべえの館長を公益財団法人に任せるという話があるが、その経過を知りたい。	市では、小学生の放課後施策のあり方を「小学生の放課後施策推進協議会」で議論いたしました。この議論を踏まえ、小学生が放課後に過ごす施設である「あそべえ」と「学童クラブ」をより安全で楽しい居場所にするために、両事業を市の子ども育成を包括的に担う公益財団法人武蔵野市子ども協会に委託することを予定しています。両事業を統括する施設長を新たに配置するとともに、職員体制を強化することで、両事業の連携強化とサービスの拡充を図ってまいります。
19	地域の運動会	青少協で行う地域の運動会への補助金がなくなると聞いたが、それは市役所で一方的に決めたのか。	これまで「地域スポーツイベント補助金」として交付していましたが、市支出の補助金全体の見直し等を踏まえ、他の補助金と統合し、平成28年度より「生涯学習事業費補助金」に名称と交付方法が変わりました。書類審査のみの10万円まで、プレゼンテーションによる50万円までの2つの方法で申請いただけます。「武蔵野らしさ」や「地域活動の活性化に貢献している」などに着目して交付対象となるか精査します。
20	学童クラブ	関前南小の学童クラブは2階にあるので、下にあるテンミリオンハウスに音が筒抜けになっている。新しく学童クラブを作るのなら、そちらへ統合してほしい。	関前南小の学童クラブは、入会児童数の増加によりクラブ室の増室が急務となりました。市では、学童クラブを学校の敷地内に整備する方針としていますが、関前南小では、校舎内の設置は困難なため、学校敷地内にクラブ室を増設することとしました。学校教育への影響を考慮し、新クラブ室は必要最小限の規模とし、今後の児童増にも対応していくため2クラブでの運営を予定しています。これからも学童クラブとテンミリオンハウス両方の事業に支障が出ないように調整いたします。
21	市民との懇親会	コミュニティセンターの委員長や社協の代表者、防災会の代表者の方たちと市民の懇談会を開いたらどうか。	現在、コミュニティ協議会を中心に、地域の団体を含めた様々な団体が地域の課題を共有し、話し合う場として「地域フォーラム」の開催を進めています。
22	テンミリオンハウス	テンミリオンハウスの運営主体が数年で替わり、今までよくしてくれたスタッフが急に替わってしまう。もう少し心ある行政施策をとってほしい。	テンミリオンハウス事業は市の重要な福祉施策の一つであり、住民やNPO等の団体が運営主体となり、市が年間1,000万円を上限に補助を行っています。各施設とも5年に1回の公募により運営団体を決定しており、運営団体は日々の工夫や改善を意識し、補助金の使い道や会計に留意するなど、運営主体としての責任や自覚を持続させる動機づけとなっています。また、本事業の補助は特定の団体だけではなく、広く他の団体に対しても運営団体として参画する機会を与える必要があると考えています。今まで運営団体が交代した例は1件ですが、今後交代があった場合にも利用者の立場に立った引継ぎが行われるよう、市が指導や支援を行ってまいります。
23	高齢者	一人暮らしの高齢者はどこへいけばのんびりできたり、話ができたりするのか。	市では、高齢者の皆様が集える「テンミリオンハウス」を市内7カ所に設置しています。地域の居場所として、おしゃべりをしたり、講座を楽しんだり、おいしい昼食を食べたり、のんびり過ごすことができます。平成28年度はさらに1カ所増設するほか、より地域に身近な集いの場として「いきいきサロン事業」を新たに開始します。

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
24	市の職員	市の職員の顔が一部しかわからない。民間企業でやるような体験研修は行わないのか。(コミュニティセンターの行事に参加、窓口の対応をするなど)	現在のところ、研修としての実施予定はありませんが、職員が窓口・事業・管理などさまざまな部門を経験できるようなジョブローテーションで配置をしています。 また、むさしのジャンボリーや交流事業など、直接市民と接する事業では、担当部門以外の職員もワーキングとして参加し、体験を積んでいます。コミセンの行事や会議には必要に応じて職員も出席、参加するほか、今後実施するコミュニティ市民塾などの機会も生かし、お互いの顔が見える関係を築いていきます。
25	防災	地域の災害時の防災対策や支えあいステーション等の組織づくりを行っているが、実際、具体的に地域住民はどこへ行けばいいの。	市立小中学校18校、都立高校2校の計20カ所の校庭が一時集合場所となっています。自宅に火災や倒壊の恐れがある場合にはそちらに避難をお願いしています。その後被害状況に応じて、上記の20カ所に避難所を開設しますので、自宅生活の継続が不可能な場合、引き続き避難所で避難生活となります。
26		災害時には若者の力が必要だ。これからは地域活動の中心は若者になってほしい。地域の皆で話し合い、災害時の役割をマニュアル化したらどうか。	地域の皆様でそういった役割を決めていただくと、災害時にも大変有効だと思います。市としても、「避難所運営の手引き」の改訂を通して、避難所運営組織の災害時における役割のマニュアル化に取り組んでまいります。
27	バス	関前5丁目は市役所への交通手段が悪い。バスの運行を復活させてほしい。	「武蔵境駅⇄市役所」間のバス運行については、地域住民の皆様から寄せられた要望書を契機に、路線開設に難色を示すバス事業者と協議を進め、運行に伴う赤字分の一部を市が補助金として補填することを条件に、平成2年4月17日より運行を開始しました。 しかし、経年しても「平均乗客3人」、「Km当たりの平均収入82円」と全く採算が取れず、赤字額が増大し、市の運行補助金を加えても支出超過となったことから、止む無く平成7年6月1日を最後に廃止となった経緯があります。 関前地域(武蔵境地域)から市役所、総合体育館への来訪方法につきましては、武蔵境駅北口を発着する「三鷹駅」行きの路線バスに乗り、「武蔵野営業所」で下車して約600m歩いていただく交通手段をお知らせしております。

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
28	バス	ムーバス4号路線の運行時間を延長してほしい。	<p>ムーバス運行ルートの開設にあたっては、地域の皆様へのヒアリングやアンケート等による意識調査を十分に踏まえ、運行時間や運行本数などを決定しています。4号路線(三鷹駅北西循環)の開設にあたっては、地域住民、学校関係者、商店会、町会の皆様などからいただいたご意見やご提案を踏まえて、ルート上にある時間帯通行規制箇所の運行方策について検討しました。</p> <p>2カ所ある時間帯通行規制箇所の1つ(西久保一丁目地内)は、迂回ルートを設定し、運行することとしました。もう1つの規制箇所である市立第五小学校東側の『五小通り』(バス停「⑬-1 五小通り」と「⑬-2 小森病院」間)は、代替えとなる迂回ルートがないことや、地域住民、学校関係者などから通学のため通行規制している時間帯にバスを運行することは避けてほしいとの強い要望を受け、通行規制が解除される時刻に合わせた始発便とする運行計画を策定し、地域の皆様などと一定の合意形成を図ったうえで、運行開始した経過があります。また、終発便は他路線と同程度の20:50が終発便となっております。</p> <p>早朝や夜間の時間帯延長について、利用者の皆様からの要望としては理解しておりますが、反面、そうした利便性の向上が通学児童等への交通安全対策、並びに沿道の方々への騒音や振動の発生など環境への悪影響を与える側面もあるので、慎重に対応していきたいと考えています。</p>
29		三鷹駅までの井ノ頭通りを使った市内バスを整備してほしい。ムーバスの運行時間外の早朝・夜だけでもあると利便性が増す。	<p>関前地域から井ノ頭通りを運行しているバス路線として、関東バスの鷹25系統「三鷹駅北口～電通裏」が運行しております。</p> <p>バス路線の新設・廃止・便数変更など運行態様に関しましては、一般的に、バス事業者がルート沿線の土地利用実態及び乗車予測などの市場調査を実施したうえで、運行経費に対する運賃等の収入見込みを勘案したうえで路線化しており、ご要望のバス路線を開設する予定については、バス事業者より伺っておりません。</p>
30	高齢者	高齢者の見守りは、どのようにしたらよいか。	<p>市では「高齢者安心コール」や「認知症見守り支援ヘルパー」など高齢者の見守りを目的とした事業を行っています。</p> <p>また、市内には地域ごとに6カ所の在宅介護支援センター・地域包括支援センターがあります。気になる高齢者の方がいらっしゃいましたら、同センターにご連絡くださいますようお願いいたします。</p>
31	民生委員	民生委員との交流がなく、なかなか相談事ができない。	<p>民生委員はそれぞれが担当地域を持って活動しています。委員の連絡先は「わたしの便利帳」や市報の毎年5月1日号にそれぞれ掲載しておりますので、ご相談がある際は直接民生委員へお問い合わせください。</p>
32	市の施設	武蔵野市の施設の場所がわからないので、見学バスツアーで巡りたい。	<p>現在、私の便利帳やホームページなどで各施設のご案内をしていますが、引き続き、わかりやすい方法について研究してまいります。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
33	調理室	関前コミセンには調理室がないので、料理教室や友だちと料理をして楽しむことができません。そのようなことができる場所を作ってほしい。	施設の規模や建設時のコンセプト等によって、コミセン毎に備える設備が異なっている状況です。調理室を備えたコミセンは市内に12カ所ありますので、お近くの施設をご利用ください。
34	自転車マナー	自転車通行の乱れが気になる。市報などで呼びかけたり、自転車にステッカーを貼ることはできないか。	市では自転車安全利用講習会を平成20年度から開催し、約22,000名を超える方に参加いただいております。交通事故そのものは減少傾向にあるものの、自転車が関与する事故割合は依然として高く、まだまだ自転車ルールの周知徹底が重要と考えております。より多くの方にご参加いただけるよう、講習メニューの検討や、市報での呼びかけについて、回数の増加、ステッカーや広報車の利用なども合わせて検討し、積極的な広報等、引き続き進めてまいります。
35	コミセン	コミセンの管理者は原則60歳以下が望ましいのではないか。	コミセンの管理運営は各協議会が行っています。窓口担当の定年を設けている協議会もあってはいますが、リタイア後の活動の場としてコミセン活動に参加し、大きな力を発揮している方もおられます。こうした経験値を生かし、地域で活躍いただくためにも単に年齢だけで区切るのではなく、地域の実情を知る、各コミュニティ協議会の判断を尊重していきたいと思っております。
36	公園	市民の森公園は子どもがもっと自由に遊べるものにしてほしい。	市では、地域や利用者のニーズに合った公園づくりを進めています。園内には、はらっぱや川、花壇、畑などを整備し、緑ボランティアによる地域の人々や子ども達と共に武蔵野市の自然を育てる活動やイベントを行っています。また、この公園の基本方針は、「武蔵野の地域性、風土を活かした公園」で、遊具などはありませんが、子ども達が自ら創意工夫や豊かな感性を育みながら自由に遊んでいただければと考えています。
37	のど自慢	市制50周年のとき、文化会館でNHKののど自慢をやっていた。市政70周年でも、のど自慢を開催してほしい。	平成9年4月6日に市制施行50周年事業の一つとして、NHKのど自慢大会を市民文化会館で実施しました。(放映は5月11日)。この時は、市政アンケートでの提案を受けて検討し、NHK側にリクエストして、実施することができました。平成29年度に武蔵野市は市制施行70周年を迎えますが、市民の皆さんから様々なご意見をいただき、今後、実施事業等の検討を行っていきたくと考えています。

3. アンケートでいただいた感想

(※アンケートの自由回答欄でいただいた感想のうち、主なものを掲載しています。)

1	初めての参加です。なごやかな中に若い人の参加があつてよかった(少なかったのは残念ですが)。また、年齢を問わず武蔵野市を良くしたいという心意気が伝わった。
2	初めて参加しました。全体的によかった。市長と話し合い、今迄思っていたタウンミーティング、市長と交流ができたと思います。便利帳が大変助かっています。高齢者の話があまりできなかったのも、高齢者と地域の関係づくりや高齢者の見守り方について次回、聞きたいと思いました。
3	若者に対しての支援活動もあるとの事、初めて知りました。色々若い人達の悲しい事件が多い昨今本当にありがたい取組みと思います。
4	今はいろいろなメディアで市の情報意向を発信されていますが、市長の生の声でご説明等していただくのはとてもわかりやすかった。とても丁寧でくれた言い方でよかったです。遠い存在だと思っていたのが、近くに感じられました。なごやかな雰囲気でも有意義なタウンミーティングだと思いました。
5	市長の答弁、説明はスマートで的を射ていた。ミーティングの雰囲気は始めは堅かったが、徐々になごやかになったと思う。
※アンケートは傍聴の方も含みます。	

第63回 市民と市長の タウンミーティング

市民が主役！

わいわいテーマトーク

『みんなで考えよう 関前のまちづくり』

第一部「安全・安心なまちづくり」

第二部「住民同士の支え合い」

日時 **2月20日(土) 13:30~15:30**

場所 **関前コミュニティセンター**

武蔵野市関前 2-26-10 Tel・Fax:0422-51-0206

<主催>

関前コミュニティ協議会
武蔵野市

- ◆当日直接会場へお越しください。
- ◆お車でのご来場はご遠慮ください。



<問い合わせ先>

武蔵野市 市民活動推進課 市民相談係
Tel : 0422-60-1829 Fax : 0422-51-2000

第63回

市民と市長のタウンミーティング

『みんなで考えよう 関前のまちづくり』

第一部「安全・安心なまちづくり」

災害時における地域活動とコミセンの役割など

第二部「住民同士の支え合い」

地域での仲間づくり、多世代交流、子どもたちの
放課後施策、高齢者の見守りなど

ご意見・ご質問

当日参加できない方で、市長にご意見・ご要望のある方は、こちらにお書きになり、事前に市役所・市民活動推進課（西棟7階）、当コミセン、または各市政センターにお届けいただくか、FAXで市民活動推進課（0422-51-2000）にお送りください。

第63回

地域別
市民と市長のタウンミーティング

報告書

発行 平成28年7月

武蔵野市 市民部 市民活動推進課
武蔵野市緑町2丁目2番28号
電話(0422)60-1829 (直通)